



「巻頭言」

市立札幌病院長 関 利 盛

今年の夏は冷夏だと感じていましたが、数日前から急に暑くなってきました。発育が遅く、ヤキモキしていた家庭菜園の枝豆、胡瓜の成長もやっと期待できそうになりました。とはいうものの、急激な気温の上昇に身体が追い付かないことと思います。体調管理には十分配慮していただきたいと思います。

さて、2016年の上半期が過ぎました。本年4月には熊本で大地震が発生し、まだ数多くの方々が不自由な避難生活を余儀なくされています。また、私たちの仲間である熊本市民病院も被災し、残念ながら建屋が倒壊する危険性があるということで入院患者さんを他院へ転送したり、診療停止を余儀なくされています。このようなときにこそ被災者のために頑張りたいと考えていた職員もたくさんいたものと思います。大変残念で悔しい思いをされているのだらうと、職員の気持ちを考えるといたたまれない気持ちになります。1日も早い復旧を祈っています。

本年3月に発行されました本誌巻頭言で「2016年チーム市立札幌病院の目指すべきこと」と題して拙文を投稿しました。私たちが目指しているのは地域の医療機関から信頼される高度急性期医療の提供病院です。その中で、4月から診療報酬が改定され病院経営はかなり厳しい状況になると申し上げました。同時に、その状況を見越してすでに準備もしていると申し上げました。特に総合入院体制加算Ⅰを獲得するためにいろいろな手立てを行いました。その甲斐もあって、4月からこの加算がとれることになりました。皆様のご協力に感謝します。

総合入院体制加算は総合的かつ専門的な急性期医療を24時間提供できる体制を評価してつけられた加算です。その中で加算Ⅰは高度急性期医療を提供できる数少ない医療機関に対してつけられた加算です。北海道では2施設、全国でも30施設に満たない施設にしか与えられていない加算です。いかに取得することが困難であるかが理解していただけたと思います。施設条件としては以下に挙げる全ての条件を満たしている必要があります。

- ア：人工心肺を用いた手術 40件/年以上
- イ：悪性腫瘍手術 400件/年以上
- ウ：腹腔鏡下手術 100件/年以上
- エ：放射線治療（体外照射法）4000件/年以上
- オ：化学療法 1000件/年以上
- カ：分娩件数 100件/年以上

以上のような厳しい条件を定めています。当院は皆様の協力もあって何とか施設認定をClearしました。今後も継続していく必要があります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

それとは別に現在さまざまな取り組みを色々な部門で行ってくれています。従来から行っていますが、私たちが行っていることを診療報酬で正当に評価してもらいたいと考えています。この活動は、医師、看護師だけではなく歯科、薬剤部、リハビリ部門、栄養科、事務部門などの多くの部門が集まり、算定システムの構築を目指して頑張ってくれています。この活動を通して、私たちは診療報酬だけでなく、患者さんの療養環境の改善、働いている私たち自身の労働環境の改善を目指しています。この取り組みを進めることで、病院全体がチーム市立札幌病院として一致団結して患者さんへの対応ができるものと信じています。

ONE FOR All, All FOR ONE

(1人はみんなのために、みんなは1人の患者のために)

さあ、これから今年度の後半です。覚悟を決めて、診療に従事していただきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いします。

追) 南米大陸初のオリンピックがリオデジャネイロで開催中です。日本人選手の活躍を期待しています。